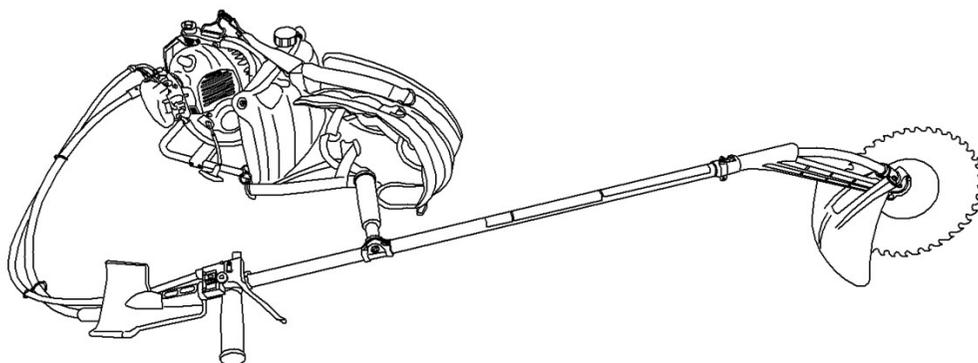




背負式刈払機

PS2F PL2F K3F K4F

取扱説明書



本製品は右差し専用機です。

※ 左差しでは使用しないでください。

この度は、本製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検およびお手入れについて説明しています。ご使用前にこの取扱説明書および別冊エンジン取扱説明書も合わせて繰り返しお読みいただき、良くご理解いただいた上で、安全で効率の良い作業を始めてください。また、この取扱説明書をお読みいただいた後、必ず大切に保管し、分からないことがあった場合には取り出してお読みください。

なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げ製品とこの取扱説明書の内容が異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

お買い上げの製品または、この取扱説明書の内容に関するご質問は、お買い上げの販売店までお問合わせください。

目次

1	▲ 危険・警告・注意の表示について	3
2	操作装置のシンボルマーク	3
3	正しく安全にお使いいただくために	
	■ 全般の注意事項	4
	■ 作業前の注意事項	5~6
	■ 作業時の注意事項	7
	■ 振動障害の防止	8
4	ラベルとその取扱いについて	9
5	仕様	10
6	各部の名称	11
7	組立方法	
	■ メインパイプの組立	12
	■ フレキシブルシャフトの挿入	12
	■ 肘受の取付	13
	■ メインパイプとエンジンの接続	13
	■ 飛散防護カバーの取付	13
	■ 巻付防止カバーの取付	13
	■ スロットルワイヤの取付	14
	■ スイッチコードの接続	15
	■ 刈刃の取付	15
	■ 移動時カバーの取付	15
8	刃角度の変更方法	16
9	吊ゴム紐の取付	17
10	使用する燃料について	18
11	給油の手順	19
12	エンジンの始動と停止	
	■ エンジンの始動	20~21
	■ 回転速度の調整とエンジンの停止	21
13	エンジンの背負い方	22
14	刈払作業	23
15	点検・整備・清掃	
	■ 刈刃	24
	■ フレキシブルシャフトへのグリスの補充	25
	■ ベアリングケース支持部	25
	■ 燃料タンク	25
	■ 点火プラグ	25
	■ エアクリーナ	26
	■ 通気口・マフラ	26
	■ エンジンのアイドル調整	27
	■ 点検項目	28
16	長期保管時のお手入れ	29
17	故障と対策	30

1 危険・警告・注意の表示について

本製品をご使用になる前に、この取扱説明書を読み、良く理解した上で正しく取扱ってください。安全で効率の良い作業をしていただくために、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「 警告サイン」として説明の都度、取り上げております。

■ 警告表示について

 危険	…	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示しています。
 警告	…	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示しています。
 注意	…	注意事項を守らないと、けがを負う恐れのあるものを示しています。
重要	…	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障の恐れがあるものを示しています。
補足	…	その他、使用上役立つ補足説明を示しています。

2 操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようご注意ください。

マーク表示部位	図柄	意味
燃料タンクキャップ		使用燃料の種別が「混合ガソリン」であることを表示します。
エアクリーナカバー		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが閉じることを示します。
		このマークの方向にレバーを操作すると、チョークが開くことを示します。

3 正しく安全にお使いいただくために

全般の注意事項

警告

1. ご使用前に、この取扱説明書および別冊のエンジン取扱説明書をお読みになり、製品機能と取扱い上の注意事項をよくご理解ください。
2. 本製品は刈払専用機です。これ以外の用途で使用しないでください。本来の用途以外で使用されますと、故障または破損する原因となり、保証対象外になる場合があります。
3. 本製品は運転中に電磁波が発生します。この電磁波はペースメーカーなどの電子医療機器の動作に影響する場合があります。ペースメーカーなど医療機器を装着している方は、本製品を使用する前に医師または医療機器メーカーにご相談ください。
4. 初めてお使いになる場合は、作業に入る前に作業の熟練者または販売店等より取扱い指導を受けてください。
5. 作業時の騒音による聴力障害予防のため、耳栓を必ず着用してください。
6. 作業時の振動緩和・やけど防止のため、手袋を必ず着用してください。
7. エンジンの運転中または停止後は、エンジン本体・マフラ・点火プラグ・ベアリングケース・その他の金属部などが高温になっていますので、燃えやすい物を接触させたり、物をかぶせたりしないでください。
8. 本製品の運搬時は、燃料漏れを避けるために燃料タンクを空にしてください。また、車で運搬するときは、ロープなどで荷台に確実に固定してください。危険ですので、自転車やバイクでの運搬はしないでください。
9. 補給用燃料容器は、丈夫で密閉できるものを使用してください。
10. 異常な箇所が見つかった時は使用しないで、お買い上げの販売店にお問合わせください。
11. 本製品の改造や分解はしないでください。故障や破損の原因になる場合があります。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用方法と異なる場合の故障や破損は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。
12. 本製品は小さいお子様の手の届く所に保管しないでください。
13. 本製品を譲渡または貸与する際は、この取扱説明書を必ず添付してください。
14. この取扱説明書は必ず保管して、分からないことがあった場合など必要に応じてご参照ください。

作業前の注意事項

危険

1. 本製品のエンジンは引火しやすいガソリンを含む「混合ガソリン」を燃料としているため、次の事項をお守りいただかないと、火災の原因となります。
 - ① 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止し、くわえタバコなどまわりに火の気がないことを確認してから補給してください。
 - ② 給油時に燃料がこぼれた場合は、エンジンをかける前に本製品に付着した燃料を完全にふき取ってください。付着したまま作業を行うと、マフラの熱や電気系統のスパークによる火災をおこし、やけどする恐れがあります。
 - ③ 給油時に燃料がこぼれた場合は、給油場所から3m以上離れた場所でエンジンの始動を行ってください。
 - ④ 給油後は燃料タンクキャップを確実に締め込み、燃料漏れなどがいないことを確認してください。
 - ⑤ 給油後は燃料容器を密閉し、火の気がなく日の当たらない涼しい場所に置いてください。
 - ⑥ エンジンを運転したまま、または停止直後は、マフラが熱いので枯れ草などの上に置かないでください。
2. 作業を開始する前には、本製品の破損・ネジ類のゆるみ・燃料漏れ・作動不良などがいないこと、特に刈刃の取り付けが完全なこと、ベアリングケース支持部にガタのないことを確認してください。
3. 作業員以外の方が作業エリア(作業員の周囲15m以内)にいないことを確認してから作業を開始してください。作業範囲内に人が入ってきた場合は、すぐにエンジンを停止し刈刃の回転を止めてください。また、複数の人で作業する場合は、作業員間の間隔を15m以上とってください。作業員どうしが接近すると危険なので、各自が笛などを用意して、離れた位置からでも合図できるようにしてください。
4. 刈刃が地面や、その他の物に触れていないことを確かめてください。

警告

1. 作業前には必ずエンジンを停止し、本製品の高温部が冷めて常温になってから“点検・整備・清掃(24～28ページ)”の確認を行ってください。
この取扱説明書では、本製品の機能維持に必要な整備について説明しています。本書に記載以外の整備については、お買い上げの販売店にご相談ください。
2. エンジンの排気ガス中には人体に有害な一酸化炭素が含まれています。屋内やトンネル・穴溝などの換気の悪い場所では本製品を使用しないでください。
3. エンジンが停止中でも安全のため、ストップスイッチは必ず“停止”にしてください。
4. エンジン停止後は、エンジン本体・マフラ・点火プラグ・ベアリングケース・その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどする恐れがあります。
5. 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などがいないことを確認し、異常のある場合は新品の刈刃に交換してください。

6. 刈刃は必ず、機種に応じて指定したビーバー純正または指定の刈刃を使用してください。
7. 交換部品はすべて、ビーバー純正または指定部品を使用してください。
8. ベアリング部に入りこんだ草・土・ほこりなどがある場合は、刈刃と刃押え金具を取り外し、取り除いてください。
9. 飛散防護カバーを取り外した状態で使用しないでください。
10. 本製品は操作を誤ると不測の事故を招くことがあります。次のような場合は作業を行わないでください。

- ① 疲労など体調の悪い時や、かぜ薬服用時・飲酒時。
- ② 風の強い日や降雨・雷など天候の悪い時。
- ③ 夜間や濃霧など、周辺の状況判断がむずかしい時。
- ④ 落石や雪崩の恐れがある所。
- ⑤ 斜面や足元がすべりやすいなど、安定した操作姿勢の保持が困難な所。
- ⑦ たき火や燃料などの引火物が近くにある時。
- ⑧ 取扱説明書の内容が理解できない人、子供には絶対使用させないでください。

11. 本製品をお使いになる際は、次のような用品を着用してください。

① 長袖の上着と、裾を絞った長ズボン
② 滑り止めの付いた長靴または安全靴
③ 防護メガネまたはフェースシールド
④ 防塵マスク(粉塵の多い所では着用してください)
⑤ 手袋
⑥ 帽子またはヘルメット
⑦ 耳栓
⑧ すね当て
⑨ 笛

※ 防護メガネまたはフェースシールドを着用しないで作業をすると、飛散物が目に入って失明などの重大事故を起こす危険性があります。

※ 裾じまりの悪い衣服や、裸足・サンダル・草履などでの作業はしないでください。

作業時の注意事項

警告

1. エンジン運転中は点火プラグやプラグコードに触れないでください。電気ショックを受ける恐れがあります。
2. 雨中での作業は行わないでください。エンジン内部に水が入ると、電気ショックを受ける恐れがあります。
3. エンジン運転中および作業終了後1時間は、エンジン本体・マフラー・点火プラグ・ベアリングケース・その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどする恐れがあります。
4. 疲労が重なると注意力が低下し、事故の原因になります。
1日の作業時間は、厚生労働省通達で「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」が 10m/s^2 以下である刈払機は、次のように決められています。
 - ・1回の連続作業時間は30分以内。
 - ・1回の作業の後、5分以上の休止時間を設けること。
 - ・1日の作業時間は2時間以内。振動障害を防止するため、製品をお使いになる前に“振動障害の予防(8ページ)”をご参照ください。
5. エンジンをアイドリング状態にした時、刈刃の回転が止まることを確認してください。止まらない場合は“エンジンのアイドリング調整(27ページ)”を行ってください。
6. 作業中ハンドルやグリップをしっかり握って操作してください。不意に硬いものが当たった時に手が外れることがあります。危険です。
7. 飛散防護カバーにつまった草を取り除いたり、刈刃の交換・点検・燃料補給が必要な場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。
8. 作業中に異常音・異常振動が発生した場合、ただちにエンジンを停止し、本製品の点検を行ってください。
9. 作業中に燃料が漏れている場合は、ただちにエンジンを停止し、お買上げの販売店に修理を依頼してください。
10. 転倒や不意の姿勢変化により、本製品が作動して思わぬ負傷をすることがあります。次のような場合は必ずエンジンを停止してください。
 - ① 移動や作業が終了して、本製品を持ち運びする場合。
 - ② 巻付いた草などを取り除く場合。
 - ③ 作業中に後方より声をかけられた場合、振り向く前にエンジンを停止してください。
11. やむをえず他の作業者に近づく場合は、離れた位置から笛などを利用して合図するようにしてください。
12. 作業中は草などに隠れた石や木の切株などに充分注意してください。もし刈刃がこれらの硬い物に当たった場合は、すぐにエンジンを停止し、刈刃に異常がないか点検し、異常がある場合は交換してください。
13. 作業終了後の移動または収納する場合は、刈刃に移動時カバーを必ず取り付けてください。

振動障害の防止

■ 1日の作業時間について

疲労が重なると注意力が低下し事故の原因になりますので、ゆとりを持った作業計画を立ててください。

1日の作業時間は、機体または下表に記されている「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」により、厚生労働省通達で次のように定められています。

周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値が

① 10m/s^2 より小さい場合：1回の連続作業時間は30分以内、1日の作業時間は2時間以内。

② 10m/s^2 より大きい場合：1回の連続作業時間は30分以内、1日の作業時間は次の式により算出した時間以内。

$$T = 200 \div (a \times a) \quad T: 1日の最大作業時間(時間) \\ a: 周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値(\text{m/s}^2)$$

■ 使用前の点検・整備について

製造時の状態を維持するため、作業をする前に必ず本製品各部の点検・整備を行い、異常が無いことを確かめて下さい。

次のような異常がある場合は速やかに使用を中止し、ご購入の販売店に点検・整備を依頼してください。

- ① 振動が大きくなったなど、異常な振動を感じたとき
- ② 防振ゴム・防振スプリングの劣化・破損・固定部のゆるみ
- ③ ハンドル(左右)の変形・破損
- ④ ハンドル(左右)取付部のゆるみ・破損
- ⑤ 刈刃のゆるみ・チップ飛び・ひび割れ・欠け・曲がり・摩耗・損傷
- ⑥ 刈刃の取付状態・偏芯(ブレ)の確認
- ⑦ 刈刃の切れ味不良

■ 周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値および本体質量

型式名	乾燥質量(kg)	周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値(\text{m/s}^2)
F270T-PS2F	7.2	1.9
F270T-PL2F	7.3	1.4
F270T-K3F	7.7	2.8
F270T-K4F	7.8	2.9
C270M-PS2F	7.5	2.1
C270M-PL2F	7.6	2.5
C270M-K3F	8.0	2.6
C270M-K4F	8.1	1.4
B337M-K3F	9.1	3.0
B337M-K4F	9.2	3.0
B367Z-K3F	9.0	2.0
B367Z-K4F	9.1	2.1
L467Z-K3F	9.1	3.0
L467Z-K4F	9.2	2.4

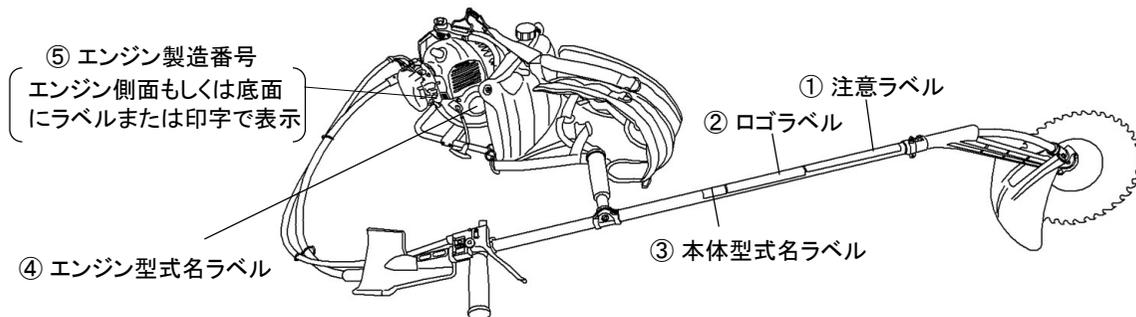
※1: 上記「周波数補正振動加速度実効値の3軸合成値」は、ISO 22867: 2021により測定しています。

※2: 乾燥質量は燃料・刈刃・飛散防護カバー・バンド(背負バンド)を除いた数値です。

4 ラベルとその取扱いについて

■ ラベルの貼付位置

- 本製品に関するお問い合わせの際は、型式名と製造番号をご連絡ください。



① 注意ラベル



- 取扱説明書を読むこと
- ヘルメット・防護メガネ・耳栓着用のこと
- 飛散防護カバーを取り外さない
- 移動時カバー作業終了後装着すること
- 15m以内に人を近づけないこと

② ロゴラベル



BEAVER ロゴ

③ 本体型式名ラベル



本体型式名

本体製造番号

④ エンジン型式名ラベル



エンジン型式名

⑤ エンジン製造番号

エンジン製造番号はエンジン側面もしくは底面に、ラベルまたは印字で表示されています。

(表示位置は機種により異なります)

■ ラベルのメンテナンス

- 注意ラベルは、いつもきれいにして傷をつけないようにしてください。
- 注意ラベルが破損したり文字が読みにくなった場合は、お買い上げの販売店に注文し、新しい注意ラベルにお取り替えください。
- 新しいラベルを貼る場合は汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

5 仕様

エンジン部

名 称		ビーバー背負式刈払機				
型 式		F270T	C270M	B337M	B367Z	L467Z
形 式		空冷2サイクルピストンバルブ式ガソリンエンジン				
排気量(cc)		25.4	25.6	32.6	33.6	41.5
点火方式		無接点マグネット式				
点火プラグ		RCJ6Y	BPMR8Y	BM6A	RCJ6Y	RCJ6Y
キャブレタ		ダイヤフラム、ロータリーバルブ式				
燃 料		2サイクル専用オイル混合ガソリン ガソリン:2サイクルオイル=50:1(オイルFC級 又は FD級)				
燃料タンク 容 量(ℓ)		1.0	1.0	1.0	0.9	0.9
始 動 方 式		引き力低減リコイルスタータ式				
エアクリーナ		乾式	半湿式	半湿式	乾式	乾式
外形 寸法 (mm)	全高	300	300	360	360	360
	全幅	280	280	280	300	300
	全長	350	350	350	350	350
質 量(kg)		4.5	4.8	5.9	5.8	5.9

- 外形寸法・質量は、背負バンド・燃料は含んでおりません。

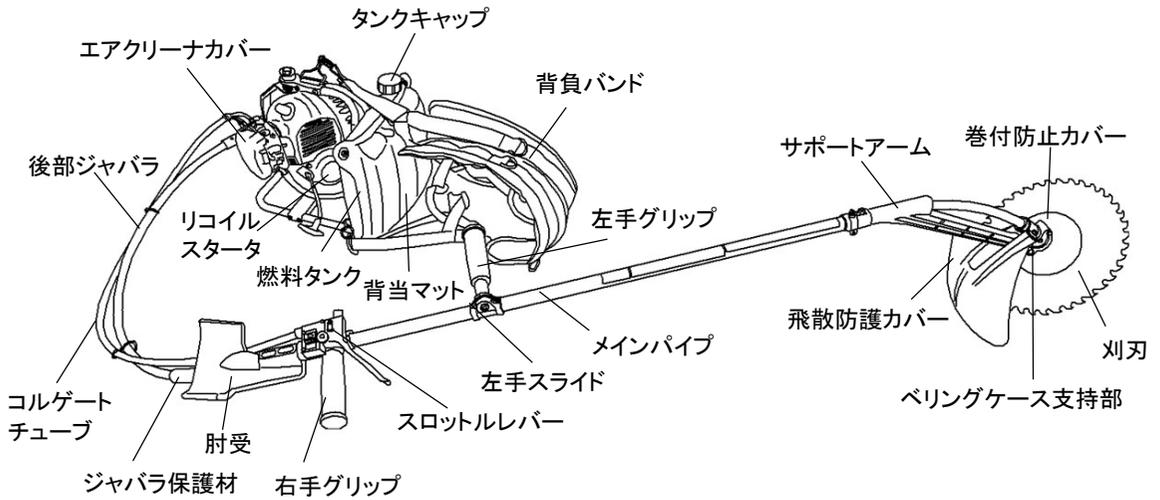
メインパイプ部

名 称		ビーバー刃角度可変式 背負式刈払機			
型 式		PS2F	PL2F	K3F	K4F
ハンドル 形式	左 グリップ	○	○	○	○
	右 グリップ	○	○	○	○
メインパイプ		アルミ製			
外形 寸法 (mm)	全長	2160	2260	2160	2260
	全幅	300	380	380	380
	全高	180	180	180	180
質 量(kg)		2.7	2.8	3.2	3.3
刃の回転方向		上から見て反時計方向			
動力伝達方式		フレキシブルシャフト φ7		フレキシブルシャフト φ8	
刈 刃		10インチ(外径255mm)チップソー			

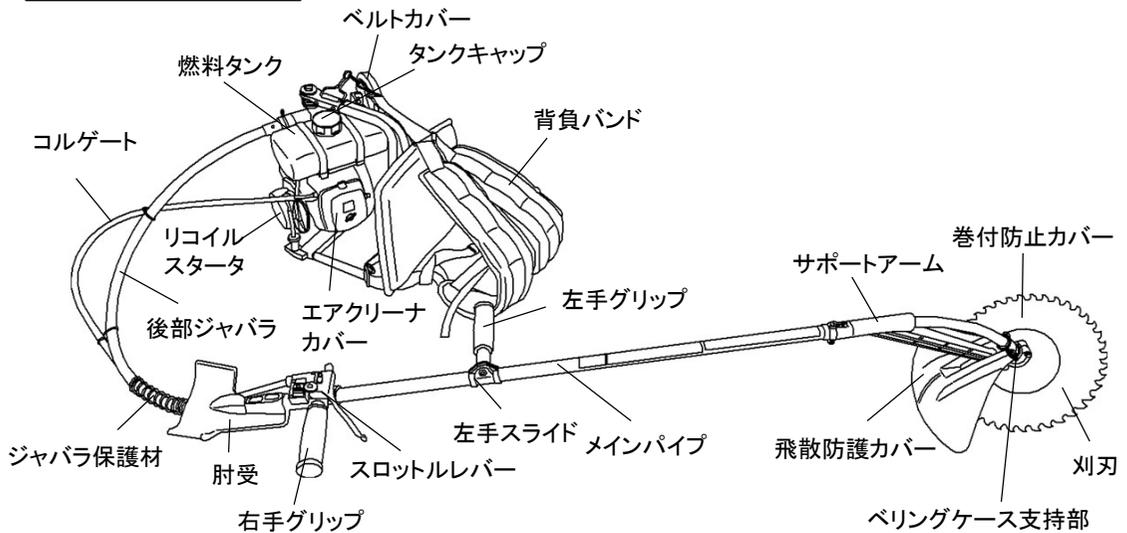
- 外形寸法・質量は、飛散防護カバー・巻付防止カバー・刈刃を含んでおりません。

6 各部の名称

C270M - PS2F



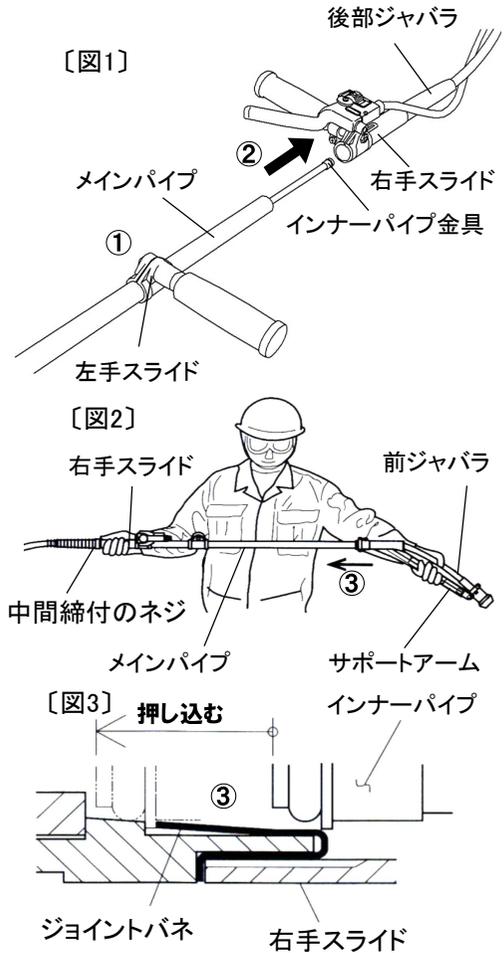
L467Z- K3F



7 組立方法

■ メインパイプの組立

- ① [図1]のように、メインパイプに左手スライドを挿入してください。
- ② メインパイプを後部ジャバラのついた右手スライドに軽く差し込んでください。
- ③ 左手で前ジャバラとサポートアームを[図2]のようにしっかり握り、メインパイプを右手スライドに強く押し込んでください。(インナーパイプ金具が右手スライド内部のジョイントバネに引っ掛かり、抜けなくなります [図3])
- ④ 挿入後、右手スライドを前後に動かして、右手スライドとメインパイプが分離しないこと、刃角度が変わることを確認してください。



補足

- 挿入の際、右手スライドを左右にひねりながら行うと入りやすくなります。

⚠ 注意

- メインパイプが右手スライドに確実に入っていないと刃角度の変更ができなかったり、刈刃が回転しない場合があります。

■ フレキシブルシャフトの挿入

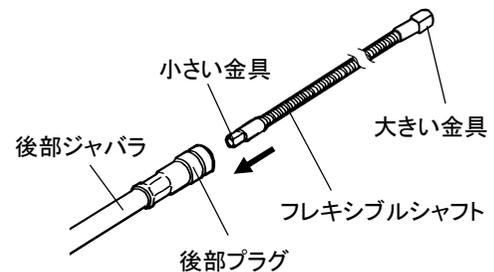
- 後部ジャバラのプラグより、フレキシブルシャフトの小さい金具の方から挿入し、挿入後フレキシブルシャフトの大きい金具を回して刃受金具が回ることを確認してください。

重要

- フレキシブルシャフト挿入時、砂・ゴミなどが付着しないように注意してください。砂などが内部に入り込むと、フレキシブルシャフト・ベアリングなどに摩擦によるガタが生じ、寿命が著しく低下します。

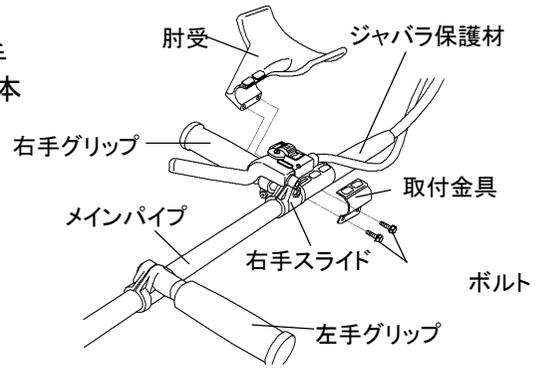
補足

- フレキシブルシャフトが途中で入りにくい場合は、フレキシブルシャフトを回しながら押しすとスムーズに入ります。



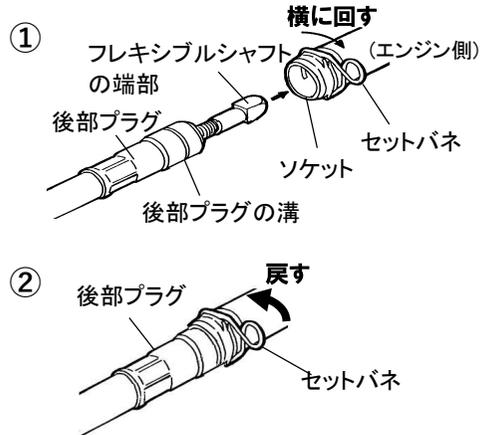
■ 肘受の取付

肘受を右手グリップと平行になるように、右手スライド後方に取付金具とボルト(M6×25)2本で取り付けます。



■ メインパイプとエンジンの接続

- ① セットバネを横に回して、ソケット内部の角穴にフレキシブルシャフトの端部を挿入しながら後部プラグを差し込んでください。

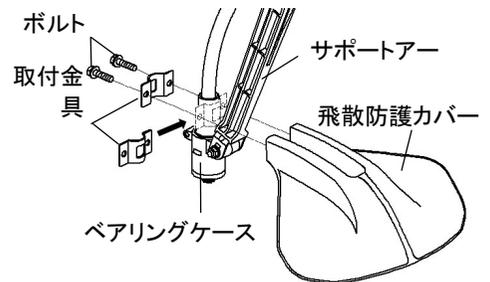


補足

- 後部プラグ接続の際、フレキシブルシャフトを5cmほど引き抜き、先にソケット内部の角穴に差し込むと容易に接続できます。
- ② セットバネを後部プラグの溝にはまるように戻してロックした後、後部プラグを引っ張って抜けないことを確認してください。

■ 飛散防護カバーの取付

- ① ベアリングケース上部の細い部分に取付金具を両脇に当て、ボルト(M6×25)2本で締め付けてください。
- ② 締め付け後、刈刃の角度を変えてみて、飛散防護カバーとサポートアームが触れないことを確認してください。

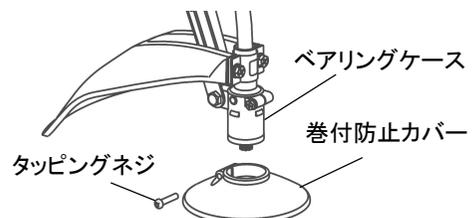


警告

- 刈刃との隙間を十分とって、刈刃に飛散防護カバーが触れないように取り付けてください。
- 飛散防護カバーは所定の位置へしっかりと取り付けてください。取り外したりゆるんだままご使用になるとカバーが刈刃に触れて破損したり、はね返った石や木切れなどで重大な人身事故につながる恐れがあります。

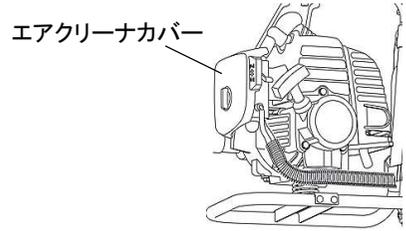
■ 巻付防止カバーの取付

- ① 刃受金具と刃押え金具を外し、巻付防止カバーをベアリングケースにはめ込んでください。
- ② タッピングネジを締め付けて固定してください。



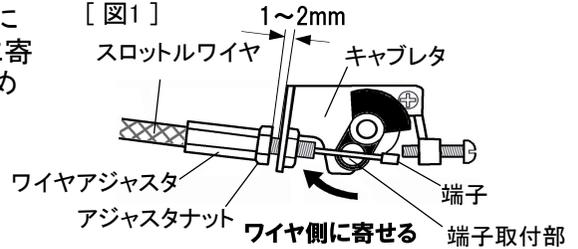
■ スロットルワイヤの取付

- ① エアクリーナカバーを取り外してください。

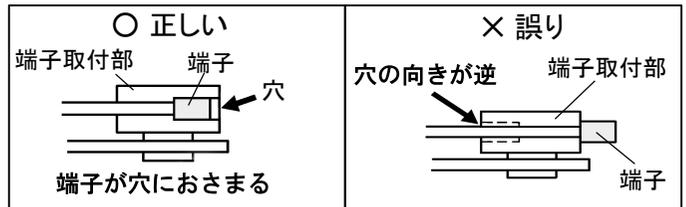
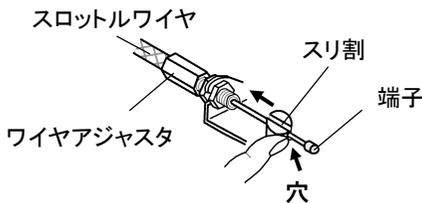


- ② スロットルワイヤの端子をワイヤアジャスタに通し、キャブレタの端子取付部をワイヤ側に寄せた状態で([図1])、端子をスリ割の穴にはめ込んでください([図2])。

[図1]

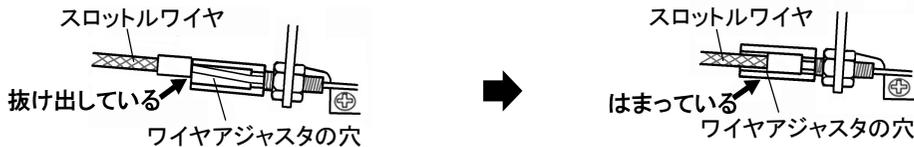


[図2]



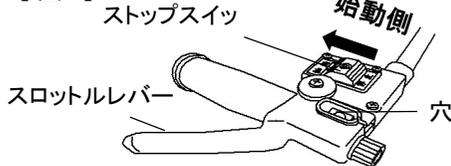
補足

- スロットルワイヤがワイヤアジャスタの穴から抜け出している場合は、ワイヤアジャスタにスロットルワイヤをはめ込んでください。

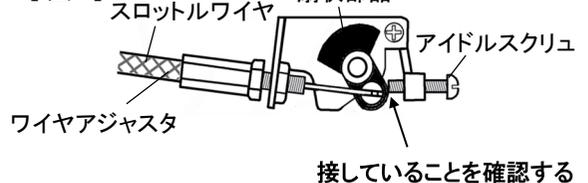


- ③ スロットルワイヤの取り付け後、スロットルレバーを操作し、動作確認を行ってください。ストップスイッチを“始動”にし([図3])、スロットルレバーから手を離れた状態で、キャブレタの扇状部品がアイドルスクリュに接していることを確認してください([図4])。

[図3]



[図4]



補足

- 扇状部品とアイドルスクリュの間にすき間がある場合は、スロットルレバーの穴もしくはワイヤアジャスタの穴の奥まで入っていない可能性があります。再度スロットルワイヤの取り付け確認を行ってください。

⚠ 注意

- 扇状部品がアイドルスクリュに接していない状態でエンジンを始動すると、始動と同時に刈刃が回る場合があります危険です。

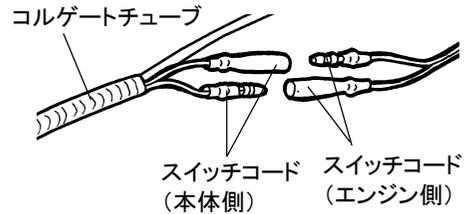
- ④ エアクリーナカバーを元の位置に取り付けてください。

■ スイッチコードの接続

- 本体側のスイッチコードの端子と、エンジン側のスイッチコードを接続してください。

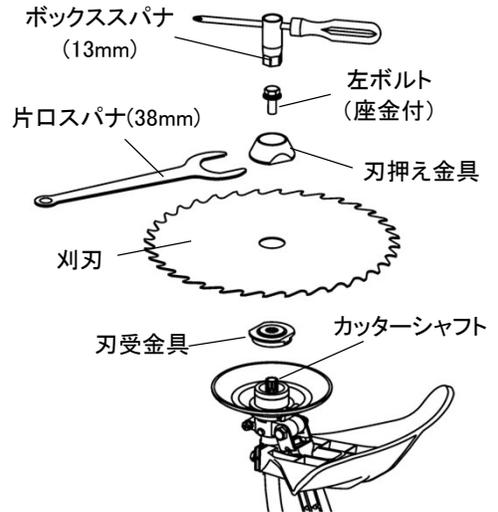
補足

- コード接続の際、端子部分にゴミなどが付着していないかよく確認してから接続してください。
- コードは強く引っ張ったり、ねじったりしないでください。



■ 刈刃の取付

- ① 刃受金具をカッターシャフトにはめてください。
- ② 刈刃をビーバーマークのある面を刃受金具側にして、刈刃の中央の穴を刃受金具の凸部にはめ込んでください。
- ③ 刃押え金具の凹部を刃受金具の凸部とカッターシャフトにはめ込んでください。
- ④ 左ボルト(座金付)で確実に締め付けてください。



▲ 注意

- 刈刃の着脱時は、その都度、刃受金具も取り外し、ベアリング部に入りこんだ土や草をきれいに取り除いてください。ベアリング摩擦によるガタ・さびなどが発生しシャフトが外れる恐れがあります。
- 本製品に付属の外径255mm (10インチ)刈刃の大きさを越える刈刃は使用しないでください。

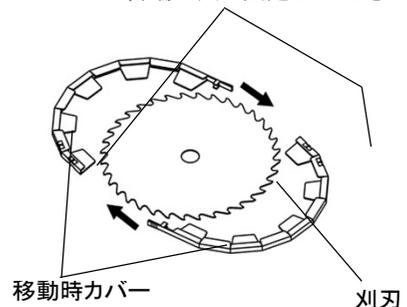
▲ 警告

- 刈刃の着脱時は必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が静止したのを確認してから行ってください。
- 刈刃の着脱時は、手袋等を着用してください。
- 刈刃の取り付け後、刈刃および飛散防護カバーが、しっかりと固定して取り付けられていることを確認してください。
- 刈刃の取付部品は、他機種の部品と混用しないでください。規格やサイズが合わないと、刈刃が外れ重大な人身事故につながる恐れがあります。

■ 移動時カバーの取付

- 作業が終わって移動したり収納する場合は、刈刃に移動時カバーを取り付けてください。
- 外径255mm(10インチ)の刈刃は、移動時カバーの一番端の穴で固定してください。

外径255mm (10インチ)の刈刃は、一番端の穴で固定してください



▲ 警告

- 作業が終わって本製品を持ち歩きする場合は、刈刃が人や物に触れる恐れがあるので必ず移動時カバーを取り付けてください。

8 刃角度の変更方法

警告

- 刃角度の調整は必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が静止したのを確認してから行ってください。
- 左手グリップ・右手グリップの位置変更は必ず、刃の回転が止まってから行ってください。
- 左手グリップ・右手グリップは作業中動かないようしっかり締め付けてください。
- グリップの締め付けがゆるんだ状態で作業を行うと、ものに当たって刈刃やメインパイプが大きくはねられ、人身事故の恐れがあります。

■ 刃角度の変更方法

- ① 右手グリップを左(ユルム)に回してゆるめ、手前に引くと刈刃の回転軸の角度はメインパイプに対して約 125° となります。

平坦地での作業や、傾斜に向かって登るような作業などに適しています。角度が決まりましたら右手グリップを右(シマル)に回して締め付けてください。

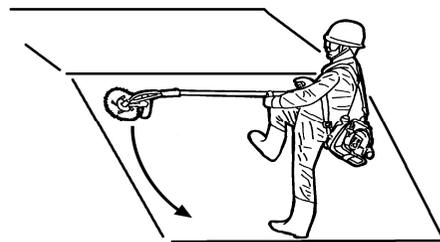
- ② 右手グリップを左(ユルム)に回してゆるめ、前に押しと刃の回転軸の角度はメインパイプに対して約 90° になります。

畦の上から下に向かっての作業や、畦の下から畦の斜面を刈る時に斜面に合わせて刃角度を調整してください。刃角度が決まりましたら右手グリップを右(シマル)に回して締め付けてください。

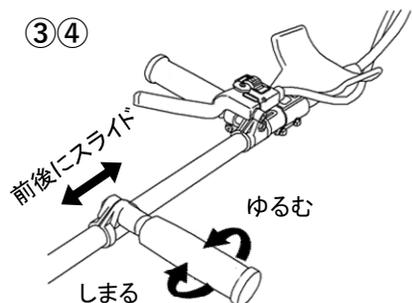
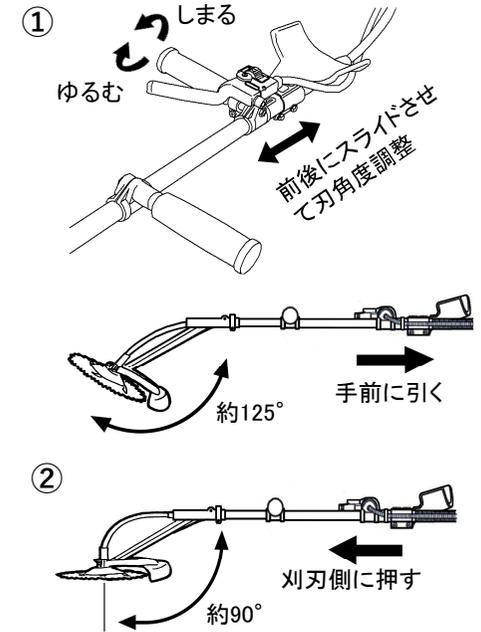
畦の上から下に向かっての作業



畦の下から畦の斜面を刈る時



- ③ 左手グリップは左に回してゆるめることにより、固定位置を変更できます。身長や好みによって位置を変更してください。
- ④ 左手グリップ位置が決まりましたら左手グリップを右(シマル)に回して締め付けてください。



9 吊ゴム紐の取付

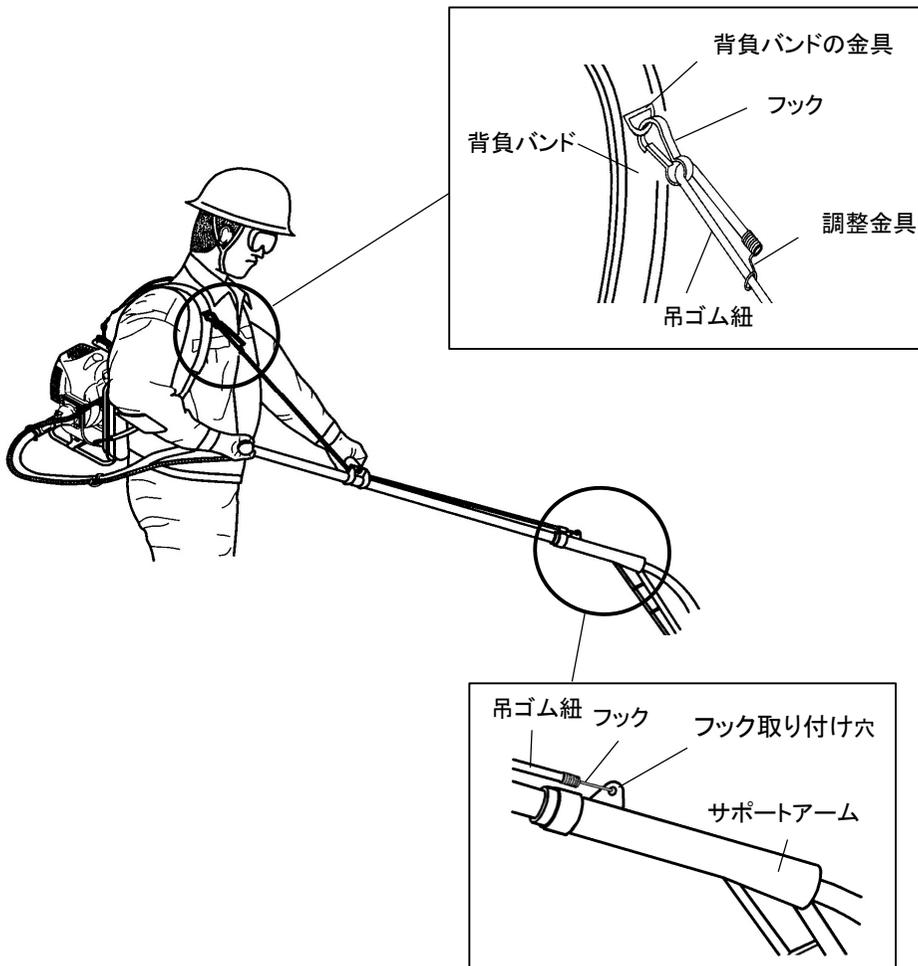


警告

- 吊ゴム紐の取り付けは必ずエンジンを停止し、刈刃の回転が静止したのを確認してから行ってください。

付属の吊ゴム紐を使用することで、疲れないで快適に作業ができます。

- ① 吊ゴム紐の先端のフックを、サポートアームのフック取り付け穴に引掛けてください。
- ② 吊ゴム紐の後端のフックは、背負バンドの金具にはめ込んでください。
- ③ 吊ゴム紐の長さ調整は、調整金具を前または後に動かし、作業性の良い位置で止めてください。



10 使用する燃料について

 危険	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料は非常に引火しやすいため取扱いを誤ると火災事故の原因となります。また、気化した燃料は爆発して死傷事故を起こす恐れがあります。 ● 燃料の混合時は必ず火気を遠ざけてください。 ● 本製品や燃料の保管容器を、たき火やバーナーなどの火気の近くに置かないでください。
重要	<ul style="list-style-type: none"> ● オイルが混合されていないガソリン(生ガソリン)を使うと、エンジンが焼き付きます。給油時は燃料が正しいか確かめてください。 ● 燃料は紫外線や高温に長時間さらされると変質劣化し、始動不良や出力不足などの原因になります。混合した燃料は、30日以内を目安に使い切るようにしてください。 ● 水の混入した燃料を使うと、キャブレタやエンジンの内部が腐食します。本製品や燃料容器に水がかからないようにしてください。 ● 4サイクルエンジン用オイルや水冷2サイクルエンジン用オイルは使わないでください。点火プラグ汚損やピストンリング固着、マフラのつまりなどを起こしやすくなります。 ● 燃料の保管は室内の冷暗所に保管してください。

■ 使用燃料

- 燃料は、自動車用無鉛ガソリンと2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜ合わせたものを使用してください。

【2サイクル専用オイル混合ガソリンの混合比】

無鉛ガソリン：2サイクルエンジン用オイル
= 50：1（ガソリン1Lに対しオイル20mL）

※2サイクルエンジン用オイルは、JASO FC級またはFD級をご使用ください。



- ガソリンの購入について
危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(令和元年総務省令第67号)が公布され、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認・使用目的の確認及び販売記録の作成を行うこととされました(令和2年2月1日施行)。
ガソリンを携行缶で購入の際は、本人確認ができる書類(運転免許証等)・消防法令に適合したガソリン携行缶を用意し、使用目的の確認・販売記録の作成にご協力ください。

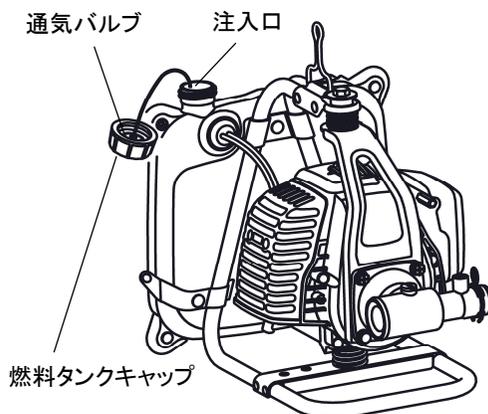
11 給油の手順

危険	<ul style="list-style-type: none">● 燃料タンクへの給油は屋外の平坦な場所で行ってください。給油時は火気を遠ざけてください。● 作業の途中で給油する場合は、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。● 燃料タンクキャップは確実に締めてください。● 給油時に燃料がこぼれた場合は、エンジンを始動する前に付着した燃料を布などで完全にふき取ってください。
重要	<ul style="list-style-type: none">● 給油時は、使用する燃料を間違えないようにしてください。必ず2サイクルエンジン用オイル混合ガソリンを給油してください。● 給油は燃料タンク内部に少し空間を残してください。(給油量は8分目程度を目安にしてください。)入れすぎると、燃料タンクキャップの通気バルブから燃料が漏れる恐れがあります。● 余った燃料は屋内の冷暗所に保管してください。

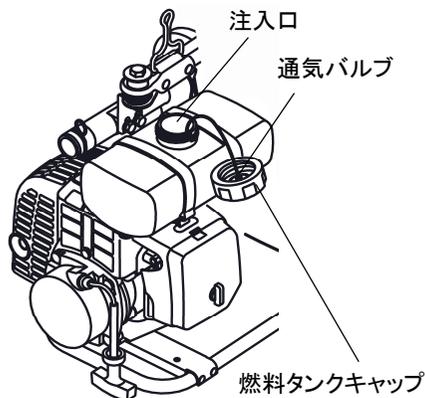
給油の手順

- ① 本製品を屋外の平坦な場所に置き、安定させてください。
- ② 燃料タンクキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。
- ③ 燃料タンクキャップを取り外し、給油量は8分目程度を目安に注入口から少しずつ給油してください。
- ④ 給油が終わったら、燃料タンクキャップを確実に締め付けて燃料漏れのないことを確認してください。

背中タンク



上タンク

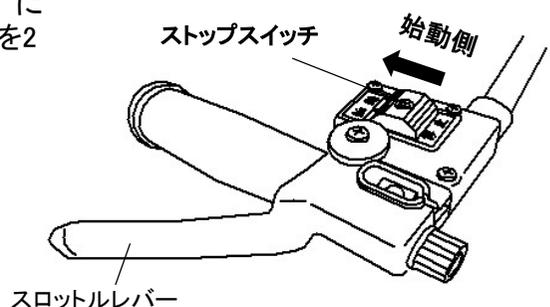
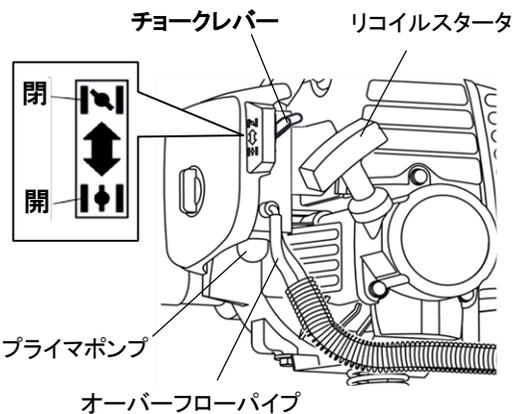


12 エンジンの始動と停止

<p>危険</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料給油後にエンジンを始動する場合は、本製品を給油した場所から3m以上離れた場所へ移動してから始動してください。給油した場所で始動すると引火による火災の恐れがあります。 ● 室内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。人体に有害な一酸化炭素中毒の恐れがあります。
<p>警告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 始動前に本製品の各部を点検し、ネジ部のゆるみや燃料漏れなどの異常がないことを確認してください。 ● エンジンの始動時は、刈刃が地面や、その他の物に触れていないことを確かめ、まわりに人がいないことを確認してください。エンジンの始動と同時に刈刃が回転すると危険です。 ● スロットルレバーを引いた状態でエンジンの始動を行うと、始動と同時に刈刃が回り、人身事故の恐れがあります。 ● エンジンが遅れてかかる場合があります。エンジンがかかるまで刈払機を押さえておいてください。 ● 運転中およびエンジン停止直後は、エンジン本体・マフラ・点火プラグ・ベアリングケース・その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどの恐れがあります。 ● 運転中は点火プラグやプラグコードに触れないでください。感電によるショックを受けることがあります。
<p>重要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● リコイルスタータは最後まで引ききったり、引っ張った状態から手を離さないでください。

■ エンジンの始動

- ① チョークレバーを“閉”にし、ストップスイッチが“始動側”の位置にあることを確認してください。
- ② プライマポンプを数回押し、オーバーフローパイプ(黄色または透明のパイプ)に燃料が流れるのを確認したら押すのをやめてください。
- ③ 刈払機をしっかり保持し、エンジンを固定して、リコイルスタータを軽く引いてエンジンを始動してください。
- ④ エンジンが始動したらチョークレバーを“開”にし、スロットルレバーを握らないで、エンジンを2～3分暖機運転してください。

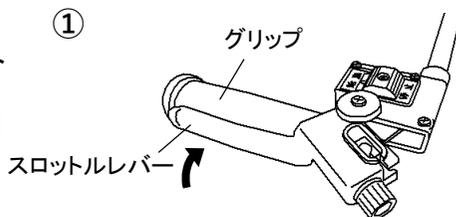


補足

- エンジンが暖まっている時(停止後、約15分以内)は、プライマポンプの操作は不要です。但し、燃料がなくなり燃料を補充した後の再始動には、プライマポンプの操作をしてください。
- エンジンの停止直後の再始動は、プライマポンプを押さずにチョークを“開”にし、スロットルレバーを戻し、リコイルスタータを引いてください。

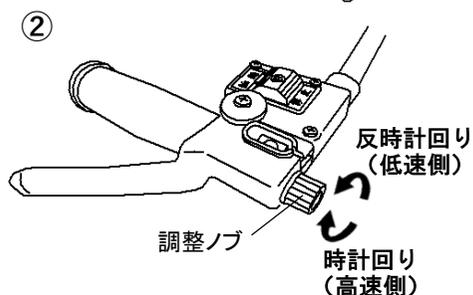
■ 回転速度の調整とエンジンの停止

- ① エンジンが始動後、刈刃が地面や、その他の物に触れていないことを確かめてから、スロットルレバーをグリップに当たるまで徐々に握ってください。エンジンの回転が速くなると同時に刈刃の回転も速くなります。



- ② 刈刃の回転を刈払作業に適した回転速度に調整してください。

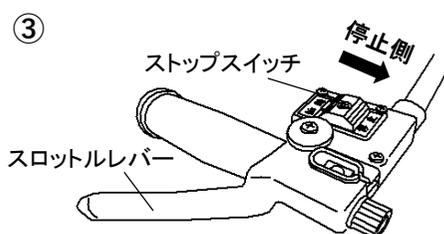
- ・ 回転速度が速い時 … 調整ノブを“反時計回り(低速側)”に回してください。
- ・ 回転速度が遅い時 … 調整ノブを“時計回り(高速側)”に回してください。



補足

- 刈払作業中、エンジンの回転速度が変わる場合があります。その時は再度、調整ノブで刈刃の回転速度を調整してください。

- ③ エンジンの停止は、スロットルレバーを離し、アイドリング状態にし、ストップスイッチを“停止側”に移動するとエンジンが停止します。



重要

- 緊急時を除く高速回転からのエンジン停止は、エンジンに無理がかかります。必ずアイドリング状態にしてからエンジンを停止してください。

13 エンジンの背負い方

警告

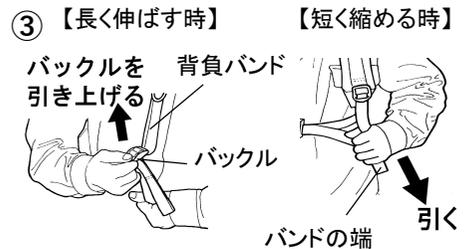
- 背負う時は、まわりに人のいない事を確認し、必ず刈刃が停止していることを確認してから背負ってください。まわりに人がいると人身事故を起こす恐れがあります。
- 刈刃が回転したまま背負うと、まわりのものや身体に刈刃が触れ、重大な事故につながる恐れがあります。
- 背負う時、後部ジャバラにコルゲートチューブが巻付いていないか確認してください。巻付いていると始動時に刈刃が急に回り、非常に危険です。

- ① 左手でメインパイプ中間部を持ち、右手で本製品の背負バンド(右)を持ち右肩に掛けます。
- ② メインパイプを右手に持ち替え、背負バンド(左)を左肩に掛けます。

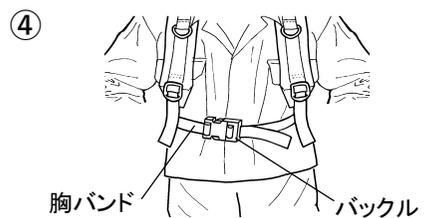


- ③ 背当マットが腰の上になるように、バックルで背負バンドの長さを調節してください。

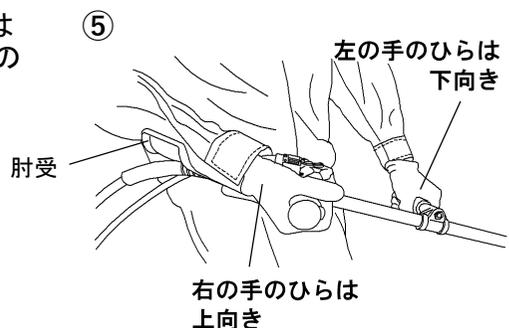
- ・ 背負バンドを長くしたい時 … バックルを引き上げると長くなります。
- ・ 背負バンドを短くしたい時 … バンドの端を引くと短くなります。



- ④ 背中でエンジンが安定するように、胸バンドを適度に締め付けてください。バックルで長さ調節してください。調節方法は③の背負バンドのバックルと同じ方法です。



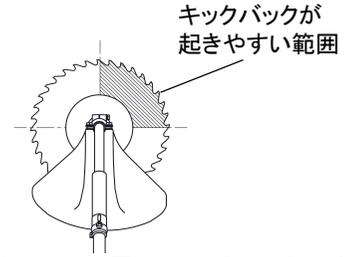
- ⑤ 左の手のひらは下向きにし、右の手のひらは上向きにしてグリップを握り、右肘は肘受にのせます。



14 刈払作業

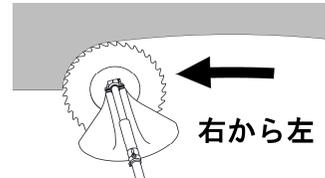
警告

- 作業を始める前に必ず“正しく安全にお使いいただくために(4~8ページ)”の事項を守ってください。
- 刈払機は身体の右側になるように持ってください。
- 刈払作業の際、刈刃の右前半分で草を刈らないでください。キックバック(はね返り)が起きやすくなり、重大事故を起こす危険性があります。

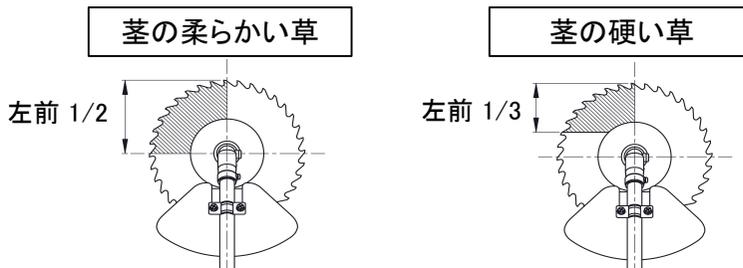


- 刈払作業は必ず、右足を先に出して進んでください。左足を先に前に出すと刈刃で切る恐れがあります。
- 刈払作業は刈刃の左側で切るように、必ず右から左に向かって刈ってください。刈刃の回転が左回転のため、刈刃の右側に硬いものが当たると、刈刃が急速度で作業者にはね返ってくることがあり非常に危険です。
- 刈取った草や小石などの飛散があります。周囲の状況を確認して作業をしてください。
- 刈払作業の際、草に隠れた石や木の切株には十分注意してください。刈刃が欠けたり石が手前に飛んできてくることがあり危険です。

- ① 背負バンドを肩に掛け、刈刃が地面とほぼ平行になるように刃角度を決め、グリップの位置を固定してください。
- ② 刈払作業の際は両足を適当な間隔に開き、右足を前にし、右足から進むようにしてください。
- ③ 刈刃は右から左に振りながら草を刈ってください。



- ④ 草の硬さにより、次の刈刃の使用範囲で刈払作業を行ってください。



補足

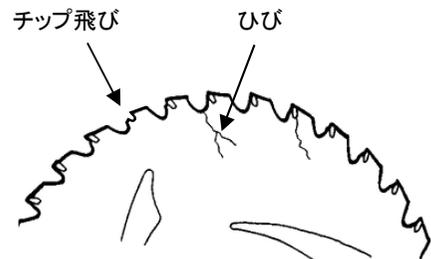
- 刈刃の回転が低すぎると草の巻付きが多くなるばかりでなく、クラッチの早期磨耗の原因にもなります。
- 刈刃いっぱい幅で刈ろうとすると、刈り残しができたり、刈った草がきれいにそろわず飛散したりします。

15 点検・整備・清掃

 危険	<ul style="list-style-type: none">● 本製品の改造や分解等はいしないでください。運転時に本製品が破損したり、燃料漏れや作動不良による不測の事故を招く恐れがあります。● 点検処置時はタバコなどの火気を遠ざけてください。燃料に引火する恐れがあります。● 本製品の各部の締結部品(ボルト・ナット・ネジ類)は、必ず純正部品または指定部品を使用してください。規格外品を使用すると、使用中に本製品が破損したり部品が脱落したりして、不測の事故を招く恐れがあります。
 警告	<ul style="list-style-type: none">● 点検・整備・清掃は必ずエンジンを停止し、本製品が冷えた状態で行ってください。エンジン停止直後は、エンジン本体・マフラ・点火プラグ・ベアリングケース・その他の金属部などの高温部に素手で触れないでください。やけどの恐れがあります。● エアクリーナ・ベルトカバー・タンクキャップ・ボルト類を外したままエンジンを運転しないでください。故障の原因になります。● エンジンのエアクリーナ・通気口・マフラなどにゴミがつかっていると、エンジンが冷却不良を起こし、エンジンの出力低下や始動不良の原因になります。使用前・使用後には、草片・ゴミ・ほこりなどが付着していないか確認し、付着している場合は清掃して取り除いてください。● 点検・整備は作業前および作業終了の都度行ってください。● 取扱説明書に記載されていない点検・整備・清掃は、お買い上げの販売店に依頼してください。● ご自身で点検・整備できない場合は、お買い上げの販売店に依頼してください。● エンジンの点検・整備については、別冊のエンジンの取扱説明書を必ずご確認ください。

■ 刈刃

- ① 刈刃部のシャフト・ボルト・支持部にガタやボルトのゆるみがないか確認し、異常がある場合は増し締めまたは新しい部品に交換してください。
- ② 刈刃や飛散防護カバーに、草やビニールが巻付いていないか確認してください。また、巻付防止カバーや刃受金具の中に、巻付いた草やビニールが入っていないかも確認してください。
- ③ 刈刃に「チップ飛び」「亀裂」「欠け」「曲がり」などがなく特に関心して点検してください。異常のある場合は新品と交換してください。



重要

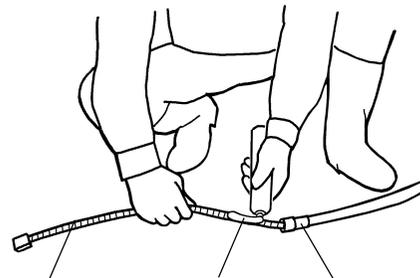
- 刈刃の切れ味が悪いと、エンジンやシャフトに無理がかかるばかりでなく作業能率も低下し、疲労度や危険性も増します。
- 巻付防止カバーや刃受金具の中に巻付いた草やビニールが入ったまま使用すると、回転が上がらなかつたりベアリングの異常磨耗などの故障につながり危険です。

■ フレキシブルシャフトへのグリスの補充

使用25時間ごと、もしくは振動を感じた時は、フレキシブルシャフトを1m位、後部ジャバラの端より引き抜き、グリスを塗布してください。

▲ 注意

- グリス補充時には刈刃が人や物に触れないように注意してください。



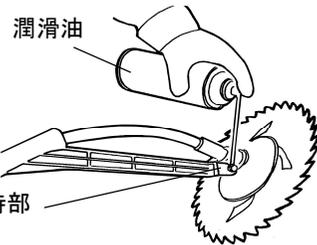
フレキシブルシャフト グリス 後部ジャバラの端

重要

- グリスが不足すると、振動が大きくなったり、ジャバラが過熱して被覆が破損したり、フレキシブルシャフトが切れることがあります。

■ ベアリングケース支持部

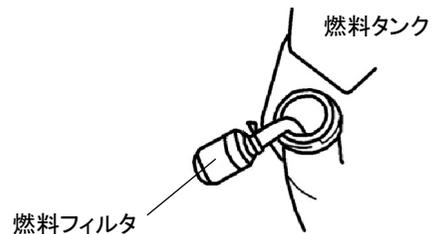
- ベアリングケース支持部の可動部分に、潤滑油を注油してください。



ベアリングケース支持部

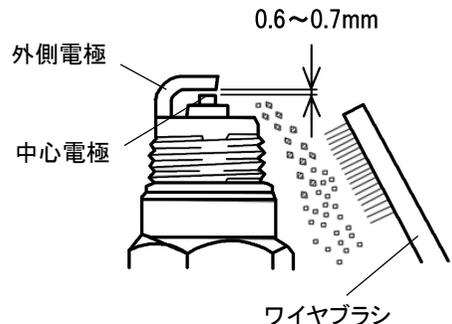
■ 燃料タンク

- ① 燃料フィルタがつまると始動不良や加速不良の原因になります。稼働時間25時間毎に燃料フィルタを取り出し、ゴミを取り除き、混合燃料で洗浄してください。汚れのひどいときは燃料フィルタを交換してください。
- ② また、燃料タンク内にもゴミがあると燃料フィルタがつまりやすくなります。燃料タンク内のゴミを取り除き、燃料タンクと燃料フィルタを混合燃料で洗浄してください。
- ③ 燃料フィルタの清掃・交換の後は、燃料フィルタが燃料タンク内で自由に動くように、燃料タンク内に押し込んでください。



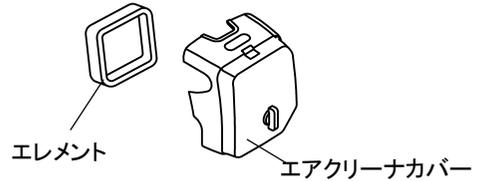
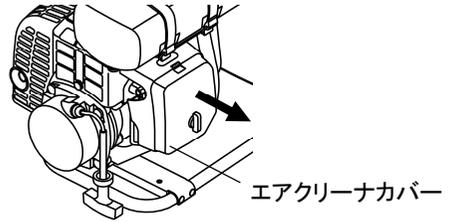
■ 点火プラグ

- ① 付属のプラグレンチを使用し、点火プラグを外してください。
- ② 点火プラグの電極スキマは、0.6mm～0.7mmが正常です。広すぎたり狭すぎる場合は調整してください。また、電極部にカーボン等が堆積している場合はワイヤブラシ等で清掃してください。
- ③ 中心電極や外側電極が焼けて丸く減っている場合は、点火プラグを交換してください。
- ④ 点火プラグの清掃は、稼働時間25時間毎に行ってください。



■ エアクリーナ

- エアクリーナのエLEMENTが汚れていると、エンジンの出力低下や始動不良を起こします。稼働時間25時間毎に必ず清掃を行ってください。また、チリやほこりの多い所で使用した場合は、1日1回清掃してください。
- ① エアクリーナカバーを取り外してください。
 - ② ELEMENTを取り出し、ゴミや汚れを取り除き、混合燃料で洗淨してください。
 - ③ ELEMENTをしぼってから元の位置に取り付けてください。
 - ④ エアクリーナカバーを元の位置に取り付けてください。

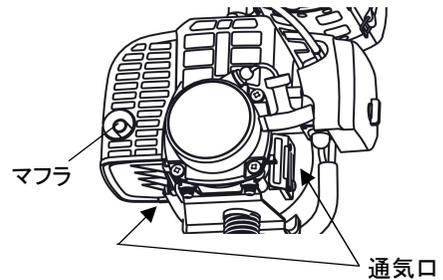


▲ 注意

エアクリーナカバーやELEMENTの無い状態で刈払作業をしないでください。エンジンの故障原因になります。

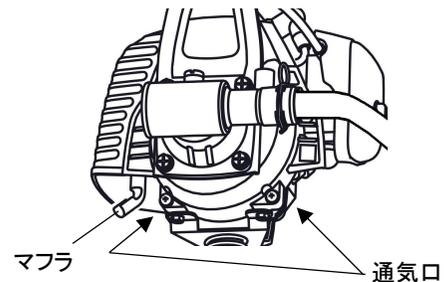
■ 通気口・マフラ

- ① 作業中にエンジン各部またはエンジン通気口に刈草・ゴミ・ほこりなどが付着した場合は、エンジンを停止し、エンジンが冷えたのを確認してから取り除いてください。
- ② マフラ内にカーボンが堆積すると、エンジンの出力低下を起こします。マフラ内部・シリンダ・ピストンのカーボン除去作業には専門の技術および道具を必要とします。お買い上げの販売店に点検・整備をご依頼ください。



▲ 注意

- エンジン各部(エアクリーナや通気口など)にゴミがつまっていると、エンジンの冷却不良が発生し、オーバーヒートの原因になります。使用前・使用後には、草片・ゴミ・ほこりなどが付着していないか確認し、付着している場合は清掃して取り除いてください。



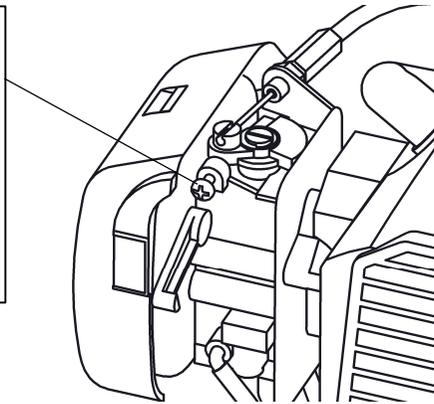
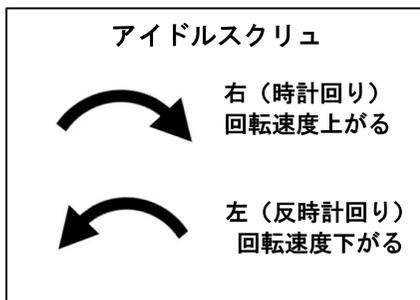
■ エンジンのアイドル調整

 警告	<ul style="list-style-type: none">● スロットルレバーを離したときにアイドル調整で刈刃が回転する状態は危険です。アイドルスクリュを再調整しても直らない場合は、スロットルレバーやスロットルワイヤの作動不良、クラッチの故障などの可能性がありますので、お買い上げの販売店に依頼してください。
重要	<ul style="list-style-type: none">● キャブレタは精密機械のため、分解整備には知識と技能が必要です。本取扱説明書で説明している調整を行ってもエンジンの調子が思わしくない場合は、お買い上げの販売店に依頼してください。

アイドルスクリュ ……

アイドルスクリュとは、最低速にした状態(アイドル調整状態)でエンジンの回転数を調整するスクリュです。

- ① スロットルレバーを完全に戻した状態にして、アイドルスクリュの調整をします。
- ② アイドルスクリュを、右(時計回り)に回すとアイドル調整時のエンジンの回転速度が上がり、左(反時計回り)に回すと回転速度が下がります。
- ③ スロットルレバーを完全に戻した状態で、刈刃が回り続けたりエンジンが止まってしまう場合は、再調整してください。



■ 点検項目



危険

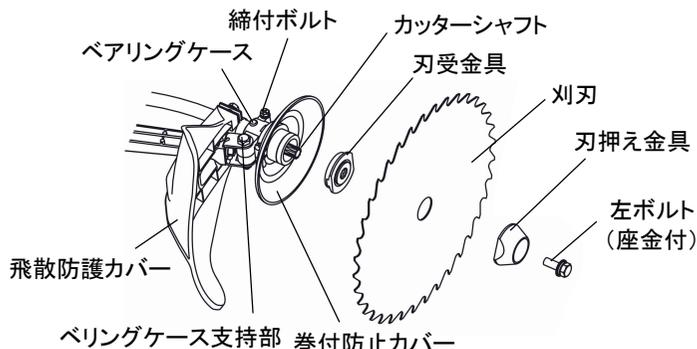
- 点検処置時はタバコなどの火気を遠ざけてください。燃料に引火する恐れがあります。
- 本製品各部の締結部品(ボルト・ナット・ネジ類)は必ず純正部品または指定部品を使用してください。規格外品を使用すると、使用中に本製品が破損したり部品が脱落したりして不測の事故を招く恐れがあります。

刈刃	左ボルトのゆるみ	増し締め
	割れ・曲がり	交換
	刃先摩耗	交換
カッターシャフト	ガタ	ベアリング交換(★)
ベアリングケース	締付ボルトのゆるみ	増し締め
ベアリングケース支持部	動き不良	注油
巻付防止カバー	内部に草などの混入	清掃
飛散防護カバー	締付ボルトのゆるみ	増し締め
	破損	交換(☆)
左手グリップ・右手グリップ	グリップのゆるみ	増し締め
左手グリップ	破損・曲がり	交換(☆)
ストップスイッチ	コードの抜け	接続
	コードの断線	交換(★)
前ジャバラ	被膜破損	交換(★)
後部ジャバラ	被膜破損	交換(★)
スロットルワイヤ	動き不良	交換(★)
	遊び不良	調整(★)
エアクリーナ	目づまり	清掃
エンジンの通気口	刈草・ゴミ・ほこりなどの付着	清掃
燃料タンク	傷による燃料漏れ	燃料タンク交換(★)
	取付ボルトのゆるみ	増し締め
	燃料タンクキャップからの燃料漏れ	燃料タンクキャップ交換(☆)
	燃料パイプに傷	交換(★)
Vベルト (B337M, B367Z, L467Z)	Vベルトのゆるみ	調整(★)
	Vベルトのひび割れ	交換(★)

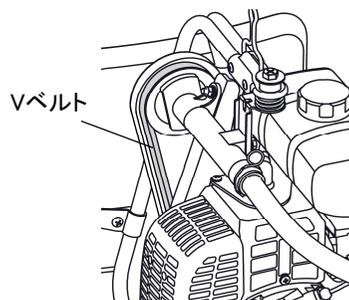
- 上記処置を講じても現象が改善しない場合や、上記以外の不調現象が生じた場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。

☆印・・・ お買い上げの販売店で純正部品をお求めください。

★印・・・ お買い上げの販売店に依頼して処置してください。



B337M, B367Z, L467Z

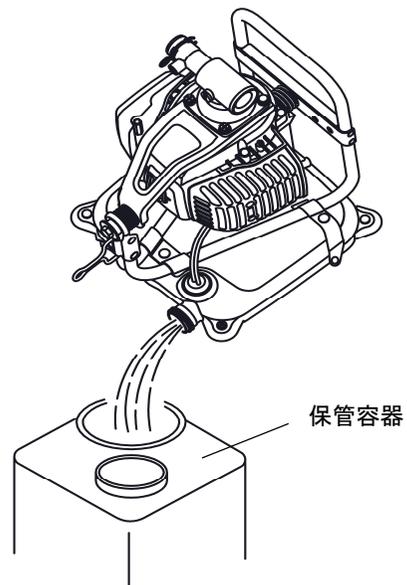


16 長期保管時のお手入れ

 危険	<p>引火による火災の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">● 燃料を抜き取る時は、火気を遠ざけてください。● 燃料をこぼさないように注意し、こぼれた燃料は完全にふき取ってください。● 燃料の保管容器のキャップはしっかり締めてください。
 警告	<p>保管する場合は下記に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 屋外に放置しないでください。● 高温や多湿になる場所には保管しないでください。
重要	<ul style="list-style-type: none">● 長期使用しない場合は燃料を必ずエンジンから抜き取ってください。燃料を入れたまま長期間放置すると、燃料が変質してキャブレタ内部がつまり、エンジン故障(始動不良・出力不足)の原因になります。● 保管時は、燃料タンクキャップをゆるめに締めてください。強く締め過ぎると経時変化によりパッキンが変形することがあります。

■ 保管要領

- ① 本製品の汚れを落とし、各部の損傷やゆるみなどの有無を点検し、異常が発見された箇所は次回の使用に備え完全に整備してください。
- ② 燃料タンク内の燃料を燃料の保管容器に排出してください。
- ③ キャブレタのプライマポンプを燃料が出なくなるまで押し、配管通路内の燃料を燃料タンクに戻してください。その後、もう一度燃料タンク内の燃料を燃料の保管容器に排出してください。
- ④ 燃料タンクより燃料を排出した後、エンジンを低速で自然に止まるまで運転し、キャブレタ内の燃料を使い切ってください。
- ⑤ 点火プラグを取り外し、2サイクルエンジンオイルを数滴シリンダ内に注入し、リコイルスタータを数回引きシリンダ内にオイルを塗り広げ、点火プラグを元通り取り付け、圧縮のあるところ(ピストンがもっとも上に来たところ)で止めてください。



17 故障と対策

※ 下記の処置を講じた上で、なおサービスが必要な時は
お買い上げの販売店にご相談ください。

■ まったく始動しない時

故障原因	対策
燃料タンクに混合燃料が入っていない	混合燃料を給油する
マフラの排気口にカーボンがつまっている	販売店に修理を依頼する
不良燃料や水などが混入した燃料を使用している	燃料タンク内およびキャブレタ内の燃料を正規の混合燃料に入れかえる “使用する燃料について(18ページ)”を参照
燃料フィルタにゴミがつまっている	燃料フィルタを清掃する
燃料フィルタが燃料油面より上にある	燃料フィルタを燃料タンクの底に押し込む
点火プラグにゴミが付着している	点火プラグを清掃する “点火プラグ(25ページ)”を参照
点火プラグの電極が摩耗している	点火プラグを交換する “点火プラグ(25ページ)”を参照
燃料を吸い過ぎている	点火プラグを取り外し、よくふき取り乾燥させる
エアクリーナの元素が詰まっている	元素を清掃する “エアクリーナ(26ページ)”を参照

■ 始動するが回転が上がらなかつたり、出力が充分でない時

故障原因	対策
チョークが全開になっていない	チョークを全開にする
スロットルワイヤの遊びが大きすぎる	ワイヤアジャスタの調整をする “スロットルワイヤの取付(14ページ)”を参照
燃料混合比を誤っている	正規の混合比の混合燃料に入れかえる “使用する燃料について(18ページ)”を参照
燃料フィルタにゴミがつまっている	燃料フィルタを清掃する “燃料タンク(25ページ)”を参照
エアクリーナの元素が詰まっている	元素を清掃する “エアクリーナ(26ページ)”を参照
マフラの排気口にカーボンがつまっている	販売店に修理を依頼する
エンジン各部にゴミがつまっている	エンジン各部のゴミを取り除く “通気口・マフラ(26ページ)”を参照
刈刃に草やヒモが巻付いている	巻付いた草やヒモを取り除く “刈刃(24ページ)”を参照

■ 振動や、ギヤ鳴りが大きい時

故障原因	対策
フレキシブルシャフトのグリスが減っている	フレキシシャフトにグリスの補充をする “フレキシシャフトへのグリスの補充(25ページ)”を参照

■ 始動と同時に刈刃が回転する時

故障原因	対策
スロットルワイヤの遊びがない	ワイヤアジャスタの調整をする “スロットルワイヤの取付(14ページ)”を参照
スロットルワイヤが外れている	スロットルワイヤを取り付ける “スロットルワイヤの取付(14ページ)”を参照
アイドルスクリュの締め込み過ぎ	アイドルスクリュの調整をする “エンジンのアイドル調整(27ページ)”を参照

BEAVER



山田機械工業株式会社

本社：〒651-2404 神戸市西区岩岡町古郷 1534

TEL: 078(967)1481 FAX: 078(967)3090

2026.1